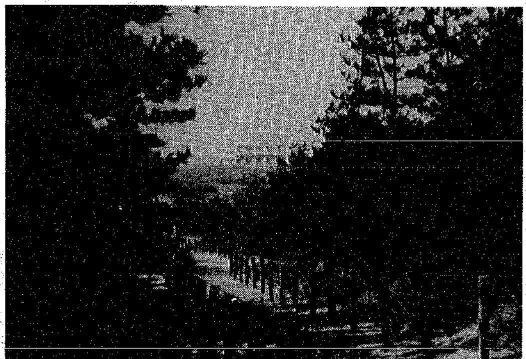
わたしの推せんする憩いの場

戸外で憩う季節がやってきました。「新潟市には緑が少ない」―という声をよく聞きます。しかし、天候のよい土曜の午後や日曜日などには、家族づれで憩う姿も多く見受けられます。

そこで今回の本欄では「わたしの推せんする憩いの場」―と題して、五人の方から登場願いました。ぜひあなたも一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

（カット写真は関屋浜の緑を素材にした古川悠子さんの作品）

紙上討論　私たちの意見



静寂な緑の集団 ―― じゅんさい池

伊藤冨美子（主婦）　五十嵐一　27歳

私がこの林を知ったのは6年前の初夏でした。時折「カッコウ」「カッコウ」の鳴き声が聞こえてくるだけで静寂な緑の集団には松林、つたのからみついたへい、草原などが起伏して続いて二つの大きなくぼ地には池がありました。場所は新潟大学農学部の裏手にあたり長い林なので浜谷町や河渡新町からも徒歩で5分くらいで林に出合います。この二つの池は「じゅんさい池」という名前でおわかりのように「じゅんさい」が採れます。時々釣をしている人を見かけますので下りてみるのですが、私のような素人には縄を区別がつきません。又池の側には温泉もあります。私にとってはこの二つの池をとりまく林が好きでよく散歩に出かけました。池のすぐ高台からは海が一望に見わたせ絵を描くにとても良い所です。どんどん林の中へ入って行くと傾斜の良い草原があります。冬はスキーの練習に良く、春や秋の日だまりの恋しい時にもかっこうの場所です。とにかくここは夏は松風がここちよく、池の白と赤の花の色どりが緑をいっそう淋しげに、又雪のじゅんさい池は絵になります。四季を通してのんびり散歩するには最高の場所だと思います。

次回は"わたしの体力増進法"

日本一の「マンモス早起き野球大会」がはなばなしくスタートしました。市では、野球に限らず、種々の催しをとおして、余暇利用と体力づくりの場を提供しています。

「楽しみながら体力の増進を図る」―これこそスポーツの真髄でしょう。そこで今回は"わたしの体力増進法"と題してご意見を募集します。

スポーツを通したあなたの健健康管理法をみなさんにご紹介ください。

応募要領　四〇〇字づめ原稿用紙一枚半（六〇〇字程度）にまとめ住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記のうえ、市広報課（〒九五一　市内西堀通六）へ、五月十日までに、お送りください。無記名の原稿は掲載しません。掲載分には薄謝進呈。

おことわり

「紙上討論―わたしたちの意見―」は、これまで毎月十五日発行号に掲載してまいりましたが、今後は二十五日発行号に掲載いたしますのでご了承ください。

広がる雄大な景色 ―― 関屋分水

根立美穂子（主婦）　文京町26―3　26歳

わたし達の住んでいるアパートから、五分も歩けば関屋分水に行けるのですが、おだやかな波が寄せる海が見えて来ます。

右手の方には、今、建設中の、展望台があり、さらにその先は、砂をならして造成中、公園が出来る予定なのです。

かなり広い公園には、砂場が出来、ブランコやすべり台が、置かれるそうで、今からとても楽しみにしているのです。

道路から高くなっているので、車の危険が少なく、子供も伸び伸び走り回れて、うれしそうですし、邪魔な物もないので、太陽の日射しを浴びて、その気持の良い事。

あの暗い冬を思うと、夢のようです。

それに雄大な景色をながめながら、おにぎりでもパクついたら、さぞかし食も進む事でしょう。

ウィークデイの日でも、昼下がりともなれば、進入禁止の道路上で、子供たちが、ローラースケートを、楽しんでいますし、堤防の下では、釣をしている人もいます。

とにかく広大としていて、いっぺんで気に入った場所です。

エキゾチックな近郊の野 ―― 空港周辺

小暮光男（公務員）　春日町5―13　50歳

新潟市に緑を求めるといえば、まず海岸の砂丘地帯があげられるが、空港周辺は案外忘れられている。現在、近郊では「野」という実感のある唯一の所ではないだろうか。夏の緑だけでなく、冬枯のわびしさ、雪野の白さなど、いずれも心にしみるものがある。

バスを降りた空港入口の道路の両側、およそ二百米もあろうか延々と連なるアカシヤの並木は一寸したエキゾチックさをかもしだしている。初冬の頃になるといっせいに白い花房を垂れものうい匂いをただよわせる。夏休みなど、虫とりや植物採集の子らがたわむれる野の一角に、空港ビルがある。屋上からは河口近い阿賀の流れや、防砂林のかなたに青い海原が望まれる。時折轟音をひびかせて離着陸する大型飛行機の雄姿は子どもたちの観声を呼ぼう。運の良い人(?)は、二三機いっしょに滞留する壮観さがみられよう。

観光地ではないが、自然と文化が同居している空港周辺に緑を求められるようおすすめする。

アカシアと松の林 ―― 海浜道路

古川悠子（自由業）　女池1131　25歳

昨年の五月、コンテストに応募する写真を撮る為、新潟らしい場所を求めて市内を歩きました。東京からUターンして来た私にとって、久しぶりの新潟は何もかもめずらしく、東京では感じられなかった生活の臭いが、たまらなく魅力的でした。春の海を撮ろうと、護国神社を抜けて関屋方面へ向うと、海岸道路と人家の間に、海岸と平行になってアカシヤと松の林が続いていました。緑の少ない市内でこんなに水々しい木々に迎えられようとは、思ってもみませんでした。松の間から刺す木もれ日が、ツンツン生える下草と、ネコジャラシ、コバン草を明るい緑色に照らしていました。林の間の小道の所々には、甘い香りを春風にあずけたアカシアの白い花が、誰を待つともなし、伸びやかに咲いていました。すっかりいい気持になり小学唱歌を口ずさむ私の横を子供たちが走って通り抜けます。赤チャンを抱いたお父さんにも会いました。

青空と緑と名も知れぬ花に会いに、春の一日の散歩にはぴったりの小道だと思います。関屋で海辺に出て、光る海と遊ぶ子供を写真に納めた私は、道々つんだ草を片手にしゃれたコーヒーショップで熱いコーヒーをすすり、散歩を終えました。今年も若草の燃える頃、頭をカラッポにしてのんびり歩いてみようと、今から楽しみにしています。

丘に立ちて海と語る ―― 護国神社

渡辺信子（主婦）　沼垂東4―13　38歳

幼ない頃を転々としてきた私も古里へ戻って廿年二人の子供の母となり毎年早春、長い冬を待ちかねたように晴天の休日毎、護国神社の松林を訪れます。マイカーを持たない我家にとって最も身近な憩いの場として片道一里の道程を家族四人運動靴の足取りも軽く寝覚めの遅い商店街を通り抜け東仲通りの坂を真直ぐ突上るのです。家並ばかりに慣らされた視界の正面、いきなり飛込む真青な海、思わず湧上る歓声に親も子も生き返えります。左手の松林に駆け上がりふるさとは語ることなしの石碑と並んで弾んだ呼吸を押える時、感慨は又ひとしお、多感な少年時代をこの丘に立ち、海と語り立尽したと言う偉大な文豪坂口安吾をしのびます。遠くに霞む佐渡を追いかけ長い歴史の変遷と私にもあった青春を小間切れに想い浮べ、それらはやがて私を海綿のように侵してくれます。テトラポットと護岸堤防に一片の淋しさを憶えながら、今、前を突走る我子の姿に幼ない日の自分を重ね体中を笑いにはずませた子供達を見る時いつしか私達も童心に立返り名もない雑草と声交し鬼ごっこに、松ぼっくりを拾う事に時間を忘れるのです。長い年月の風雪に雄々しく耐えてこの丘肌にかぶさるように傾斜している松の木々を見る時、子供等も何かを学びとってくれるでしょう。今、又古里を見詰め直し細やかな家族の安息を満喫できるこの丘の松林、我家にとっては最上の楽園です。

海女の飼づけ始まる

水族館

飼づけ時間	開館時間	料金
午前 11.00 11.40 (12.00) 午後 1.20 2.00 (2.30) 3.00	午前9時 ～ 午後5時	大人 100円 小中学生 30円

カッコ内は日曜・祭日のみ

子ども文化祭 ―げき・人形げきなど―

チビッ子あつまれー！

★期日　5月5日

★時間　午前9時30分～正午

★会場　新潟市公会堂

★内容　げき・人形げき・おどり・リズム遊び―など

★出演　新潟大学・県立女子短期大学・青陵女子短期大学―の児童文化クラブのみなさんと五十嵐瑠美子舞踊研究所のみなさん

★料金　無料

整理券とプログラムは、各学校、幼稚園、公民館、市社会教育課にありますので、あらかじめおもちください。

調理師試験

試験期日　6月16日

受験資格　新制中学校卒業後2年以上調理実務経験のある人

願書受付期間　5月7日(火)～5月11日(土)（12時まで）

受付場所・問い合せ先

東保健所 総務課指導普及係

西保健所 総務課指導普及係